

# クロスカルチャー出版「ユース

2021年9月29日号

『近現代日本語辞典選集』『モダン語辞典・事典・用語編』 解題者 澤 正宏先生

ご執筆の記事が週刊読書人（2021年9月24日号）に掲載されました。

編者から読者へ

## 文化としての日本の「モダン語」を知る

『近現代日本語辞典選集』刊行のねらい

澤 正 宏

この度、『近現代日本語辞典選集』【モダン語辞典・事典・用語編】全四巻、第一回配本（クロスカルチャー出版、二〇二〇年九月）と、同名書の第二回配本、全四巻（同前、二二年六月）とを刊行した。全部で三冊になる辞典、事典、用語集の類の復刻である。このなかの多くが国立国会図書館にもない書物だと出版社から聞かされ、少し驚くとともに、それなら資料として刊行

などより的確に理解したいというところがあった。言い換えれば、少しでも広く深くそれらの内側に迫りたいという思いに発していた。私にとっ

イトルに「モダン語」と付したように、刊行の中心的なねらいは、この期間とほぼ同期間に噴出するように社会に出現してきた、外来語ないし外来語の翻訳を含む新しい言葉の紹介である。厳密に言えば、ここで意図している「モダン」の時期の始まりは、日本の文学思潮であった、リアルな現実を願うとした自然主義小説を私小説に折れ曲げさせる動因になった大逆事件の年（一九一〇（明治四三）年）に置いている。実質的には明治の文学はこの年に終わっているのである。西欧ではこの直前の年に、やがて日本にも移植される表現主義、キュビズム、未来主義などの前衛芸術が始まっている。ただ今回の復刻に、一九〇五年刊の朝永三十郎編著の『哲学辞典』を加えたのは、この書が初めて古代から近代までの西欧哲学を系統的に把握し、解説が科学の諸分野にわたって、その後の「モダン」の時期に繋がっているからである。編著者はノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎の

もともとこれらの書物は、言語学や日本語を専門としない私が、三〇代（同前、二二年六月）の半ば頃から個人で意識的に収集してきたものだから、そのなかからとくに大切だと判断したものを選んで復刻した。収集の動機は、専門である日本学の近現代の文化や文学について、少し驚くとともに、新奇な表現、多様な背景

でも広く深くそれらの内側に迫りたいという思いに発していた。私にとっ

きた「性」に関わる日本の古い言葉も多く、同時に、当時の世界の現代医学でも使われていた「性」に関わる言葉まで復刻したのは、この分野における日本と外国との文化と交換を通過する。例えば、一九二三年三月には日本の会社が米貨社債約二千ドルをニューヨークで発行するなどということがあった。この時期の終わりは第二次世界大戦が始まる一九三九（昭和十四）年である。この年公布の国民徴用令、同年に始まる軍国国家の大教授らの追い出し（国家総動員法は前年に公布）などで、実質的に国外でも叶ってこれればと願うばかりである。（さわ・まさひろ「福島大学名誉教授・日本文学」）

澤 正宏 解題

### 近現代日本語辞典選集

モダン語辞典・事典・用語編  
文学・言語研究シリーズ3



B5判・計2500頁・計132000円  
（第一回配本分）  
クロスカルチャー出版  
978-4-908823-74-9  
TEL. 03-5577-6707

（第一回配本目次：第1巻『近代詩用語辞典』『プロレタリア文藝辞典』『文学新語小辞典』『モダン語辞典』『現代術語辞典』『第2巻『モダン流』増訂 哲学辞典全』『最新 市場用語解説 別輯 英米市場用語解説』『第3巻『外来語辞典』『第4巻『英話から生れた現代語辞典』